

図4 コースウェアに貼る画像を選択する画面

フレームテーブルには最大127枚の画像ファイルを設定することができ、このテーブルに設定した画像をコース作成画面のフレームで、番号を指定することにより呼び出すようになっている。

3 コース実行モジュール

ここでは、次に示すような画面で、作成した教材を実際に学習者が実行する部分である。前述したようにフレームの属性により、テストフレームでは、答えを入力したり、分岐のフレームでは分岐先の番号を入力することになる。テストフレームでは次に示すように、予め設定してある正解データによって即座に評価がなされ、履歴ファイルにその状態が保存される。

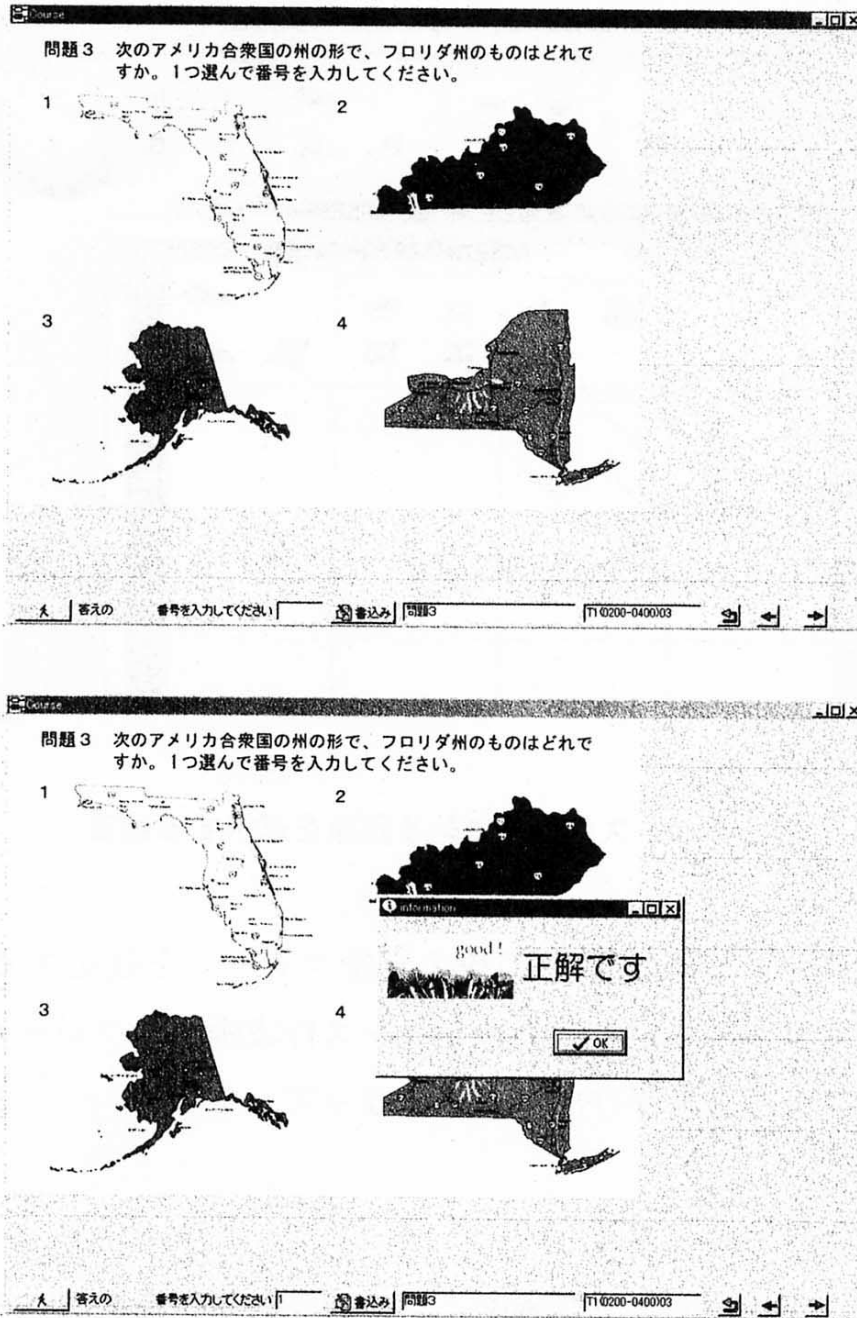


図5 テスト問題に答えて評価を得た画面

4 学習履歴参照モジュール

これは、作成した学習プログラムにテストフレームがあり、そのコースを実行してテスト問題に答えたときに保存された解答結果を表示して示すものである。

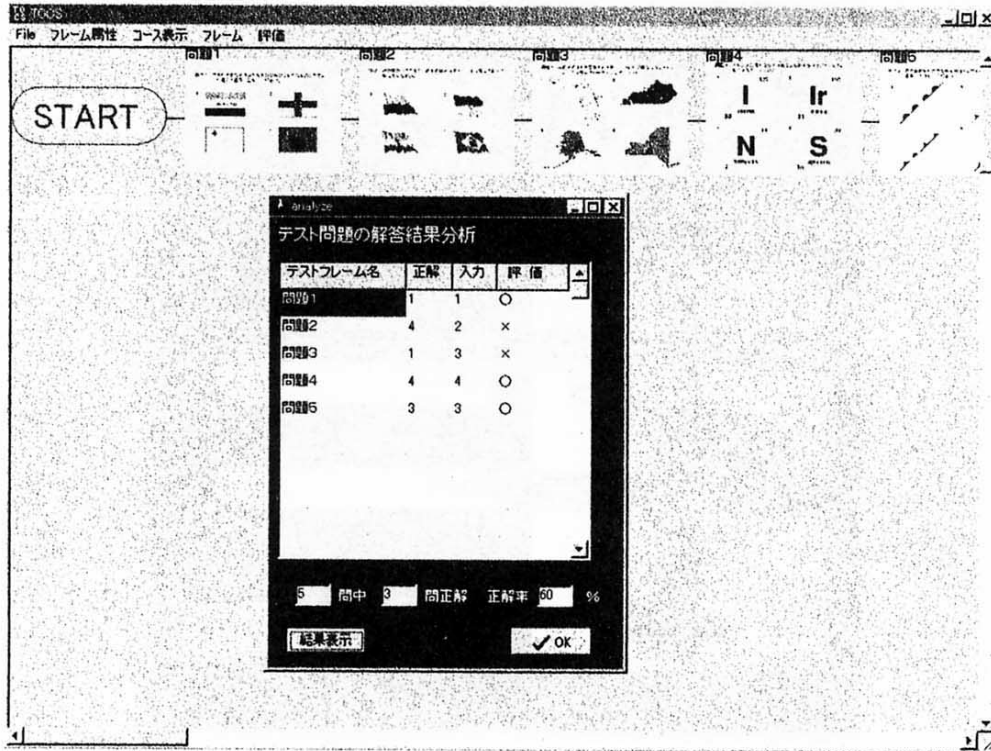


図6 各テスト問題の評価一覧表の画面

この保存される履歴データは、次に示す画面で、学習コースを実行前に入力してもらう個人ネームのデータに年月日時間のデータが付加されて生成されるため、同じ学習コースを何度も実施した場合でも異なるデータとして保存される。